

1. 主な研究内容について

女性の健康増進を主な研究テーマとし、若年女性の月経に関連する症状、周産期女性の腰背部の痛みや骨盤底機能障害を中心とした周産期特有の課題に対する調査研究を行っております。研究方法としては質問紙を作成して行うアンケート調査や各種センサを用いた実測実験を実施しています。実測実験では、現在は慣性センサや床反力計を用いた動作解析、筋電図や超音波画像診断装置による筋活動計測等を行っており、これらを用いた評価システムの提案も行っております。

また、医療現場や企業との情報交換および共同開発、国内外にわたる共同研究を積極的に行っており、得られた成果やシステムを社会に還元することを目的に研究を遂行しております。

2. 主な共同研究先

京都大学、慶應義塾大学、医療法人葵鐘会、大阪公立大学医学部付属病院、パリ・サン＝ジョゼフ病院、国際医療福祉大学、株式会社サンデシカ

3. 今まで指導した学位論文名

なし

4. 主な論文

- Morino S, Ishihara M, Umezaki F, Hatanaka H, Yamashita M, Aoyama T. “History of pain around lumbopelvic region during perinatal period: a prospective cohort study” . Eur Spine J. Online ahead of print. 2024.
- Morino S, Hirata H, Matsumoto D, Yokota I, Aoyama T. “Patterns of premenstrual syndrome in collegiate women: a cross-sectional study” . Medicine. Vol.101, No.35, pp.1-7. 2022.
- Morino S, Yamashita M, Umezaki F, Hatanaka H, Takahashi M. “Assessment of Motion and Muscle Activation Impacts on Low Back Pain during Pregnancy Using an Inertial Measurement Unit” . Applied sciences. Vol.10, No.11, pp.1-14. 2020.
- Morino S, Ishihara M, Umezaki F, Hatanaka H, Yamashita M, Aoyama T. “Pelvic alignment changes during the perinatal period” . PLoS ONE. Vol.14, No.10, pp.1-11, 2019.
- Morino S, Ishihara M, Umezaki F, Hatanaka H, Yamashita M, Kawabe R, Aoyama T. “The effects of pelvic belt use on pelvic alignment during and after pregnancy: a prospective longitudinal cohort study” . BMC Pregnancy and Childbirth. Vol.19, No. 305, pp.1-9, 2019.

5. 現在の指導している大学院生数

M1：1名、M2：2名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか？

主な研究テーマは若年層から高齢層までの幅広い女性の健康増進です。これに加えて動作解析等のバイオメカニクスの研究も行っております。これらの研究に対して、高い意欲と研究を遂行する忍耐力のある方を募集いたします。また、研究にお時間を割くことができる、チャレンジ精神のある方を募集しておりますので、ぜひ事前にご連絡・ご相談ください！